シリーズ㊲

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介します。

長浜市指定文化財
「雲雀山古墳群（ひばりやまこふんぐん）」

所在地：山ノ前町
指定日：昭和54年5月1日指定

古墳は、各地域の有力者がムラの人々とのつながりや日本列島内での社会における立場を確認するための儀式を執り行う場所でした。古墳は、全国に約10万～20万基あるといわれ、市内には約200か所の古墳（古墳群含む）が確認されています。

雲雀山は、山ノ前町と湖北町伊部の境に位置し、小谷山から南に派生する尾根の平地を隔てて南に立地する小丘です。この南北に走る山の稜線上に、複数の古墳があり、これらを雲雀山古墳群と呼んでいます。

雲雀山古墳群は、大阪市立大学文学部歴史学教室により昭和26年（1951）（調査地：特殊遺構と2号墳）と昭和27年（1952）（調査地：3号墳）に発掘調査が実施されました。

発掘調査の結果、特殊遺構は、塚の内部土中に自然石で築造された石組みを確認したことから、祭祀遺跡と考えられています。第2号墳は、東西16m、南北17m、高さ3.2mの円墳で、主体部（埋葬施設）は縦（東西）3.5m、幅（南北）1m内外です。櫛、三輪玉、鉄刀、鉄剣、鏡、勾玉、短甲、鉄鏃、土器、鉄鉾が出土しました。第3号墳は、東西12m、南北11mの円墳で、鏡、鉄剣、鉄鏃、土器が出土しました。

雲雀山古墳群（2号墳、3号墳）は、出土した短甲、鏡、土器から5世紀末葉より6世紀初頭にかけての時期に築造されたことがわかりました。これら調査結果は、大阪市立大学文学部歴史学教室紀要（昭和28年）に直木孝次郎氏らがまとめています。

なお、発掘調査した場所は、3箇所（特殊遺構、2号墳、3号墳）のみで、雲雀山に残る多くの古墳は未調査のままです。大事に次世代へ守り伝えていきましょう。

▲石標

▲雲雀山

問 文化観光課 歴史まちづくり室
☎65・6510

市立病院通信-(173)-

お元気ですか

このコーナーでは、病院施設や事業のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。

心臓リハビリで心も体も健やかに！

市立長浜病院 リハビリテーション技術科
循環器認定理学療法士　清水（しみず）悠（ひさし）

▲心臓リハビリテーションチーム

近年、高齢化の進展に伴い循環器疾患で入院する患者さんが急増し、「心不全パンデミック」と言われるほどになっています。心不全とは、心臓の力が弱ってしまい、息切れやむくみ、疲れやすさなどの症状が出る状態で、一度よくなっても再び悪くなることがあります。心臓リハビリテーション（心臓リハ）は、その治療の一端を担っています。

心臓リハは、心筋梗塞、狭心症、心不全、心臓手術後などの心臓に病気や障害のある人が、安心して日常生活や社会生活に復帰できるように支援する医療プログラムです。医師、看護師、理学療法士などの専門スタッフがチームを組み、運動療法を中心に、食事や生活習慣の改善、病気に関する教育、心理的サポートなどを行います。運動療法は、一人ひとりの体の状態に合わせて行い、心臓への負担を軽減しつつ、最も効果的な方法により体力の回復を図ります。

市立長浜病院は、循環器疾患の患者さんが非常に多く、そのニーズにこたえるため、地域における先進的な取組みとして2011年から心臓リハを開始し、地域医療を担ってきました。現在は、循環器認定理学療法士、心臓リハビリテーション指導士、心不全療養指導士などが在籍し、集中治療室から一般病棟、そして退院後の外来に至るまで幅広い患者さんを受け入れています。

「地域の皆さんが安心して暮らせるよう、心臓リハを通じて健康をお支えしたい。」

このような強い思いをもち、地域とのつながりや相互の信頼を大切にし、地域に根ざした医療をこれからも提供していきます。

問 市立長浜病院
☎68・2300（代表）